2013年（平成25年）
第67号
（7月1日）

平安月報
The HEIAN monthly report

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　宮地啓安
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条蹴上
TEL (075)762-2211
FAX (075)762-2266

自然エネルギーの普及を　～新宗連環境学習会～

６月６日、新宗連京都府協議会は「環境学習会」を開催し、淡路市が行っている『メガソーラー事業』を見学に行きました。

東日本大震災での福島原発事故以降、自然エネルギーによる発電が注目を浴びています。しかし、淡路市のメガソーラー（1,000kW 級発電）は 2010 年に完成したもので、地球温暖化対策として取り組まれたものです。

メガソーラーによる発電で、隣接する市役所などの照明などに利用されています。一般家庭約 300 世帯分の電力を供給し、甲子園球場約 24 個分の森林面積の CO_2 吸収効果に相当するということでした。

参加者は改めてエネルギーの大切さ感じ、メガソーラー発電の技術力を目にして、日頃から省エネ生活に心がけることを確かめることができました。

淡路市役所のメガソーラー

791 枚の毛布アフリカへ

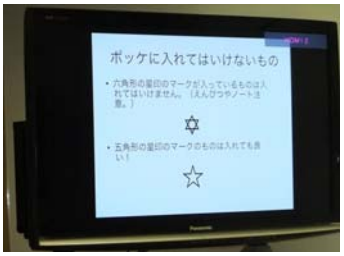
６月２日、京都教会において「アフリカへ毛布をおくる運動」の発送式が行なわれました。現地の方が喜んで頂けるように願って、ご供養を行い、同運動に取り組んだ支部の方から喜びの発表がありました。今年は 791 枚の毛布が集まり、その１枚１枚にメッセージが縫い付けられ、アフリカへ送られます。

佐藤教会長さんから「横浜で第５回アフリカ開発会議が開催されている中で発送式が出来ることは神仏のはからい」とのおことばを頂きました。

親子でゆめポッケ大作戦スタート

６月から８月まで「ゆめポッケ」キャンペーンが実施されます。戦争などで家族を失くし、傷ついた子供たちに笑顔を届ける運動として展開されます。ポッケにプレゼントと共に平和の祈りを込めて送ります。

６月２日、キャンペーン開始にあたり「ゆめポッケ大作戦」が開催され、親子で運動の意義や実施方法を学びました。画面に映し出された地球を見ながら自分たちで世界地図を書いて送られる国のことを知り、ポッケに入れていい物・いけない物を学びました。



時々刻々

先日、久しぶりに観劇に行きました。『すわらじ劇園』の「白いお地蔵さん」という人権問題を採り上げた劇でした。戦後間もない頃の小さな村に、黒人米兵との間に生まれた長女の子供が、祖父を訪ねてやってきました▼両親を失くした孫を可愛がろうとする祖父。甥として受け入れようとした家族でした。しかし、村の人から肌が黒いという理由で差別され、家族が悩み苦しんでいきます▼平和を壊すものには、形のあるものと、形のないものがあると言います。前者は戦争やテロなど。後者は差別や偏見などがそうです▼この劇では個々人の中にある「差別の心」が大きな社会問題なることを示しています。このテーマは、誰もが深く見つめ直したいものです▼『劇園』は、京都・山科の「一燈園」が母体となって設立されて、八十三年目になります。今後の活躍にエールを送りたいものです。

今月のことば　～生活即信仰～

京都教会長　佐藤益弘

先月２２日、富士山が世界文化遺産として登録されることに決まりました。遺産の名称は「富士山―信仰の対象と芸術の源泉」です。日本のシンボルが信仰、芸術の両面から、文化的価値の高いものとして評価されたことは誠に喜ばしいことであり、すべての日本人の誇りでもあります。これから富士山の美しさを守りつつ、日本人が世界に誇れる心の美しさもあわせて、貴重な遺産として後世に引き継ぎたいと思います。

さて、機関誌『佼成』７月号において、**「日々の営みが信仰実践」**とのご法話を会長先生から頂きました。

前段で、**「私たち在家の仏教徒にとって、日々の生活は仏さまの教えを学び、実践するところそのものです」**と教えてくださいました。このことは、本会の修行の特徴でもあり大切なことです。生活と信仰が別物ではなく、一体であるものとしてとらえて精進することが重要でありますし、在家仏教徒の目指すところを明示してくださったものと、受けとらせて頂きました。

その信仰の功徳についても、**「日々明るく元気ですごせることが、いわば信仰の功徳であります」**と、これまた分かりやすくお話くださっています。

さらに続いて「学ぶこと実践することがともなってこそ仏道といえます」と、仏道を歩ませていただく真の意味を心に刻ませて頂いた次第です。

後段では、真理を認識することにより、冷静になれること、そこから感謝の実践につながることを教えていただきました。

さらに六波羅蜜の中から、智慧は**「生かされている」ことに気づくこと。**その気づきから「感謝しつつ穏やかに生きる」という禅定の境が生まれるという実践的な理解ができるお話をいただきました。このことに関する私の拙い体験を述べさせて頂きたいと思います。

ある時、教会でお茶を入れていただいたのですが、私が湯呑み茶碗を持ち上げると、茶托にお茶がたっぷりありました。おや？と思いながら、私は「こういうお茶の入れ方を家でもしているのかな？もし、お客さんに出すお茶だったら失礼なことになる…」と、否定的に見ておりました。しかし見方を変えると、「お茶を出していただき、飲ませて頂けるのは、『水』や『茶葉』という自然の恵みのお蔭である。また、お茶を入れ、運んでくださる方がいらっしゃるからこそ、私は飲ませて頂くことが出来、生き続けられる」ということに気づきました。よく考えてみますと、一定量よりも多めのお茶をサービスして頂いたことを喜ぶご縁でした。これがお酒だとものすごく喜ぶくせに、お茶だと文句を言うのは誠に身勝手であり、申し訳ないと思い、茶托のお茶もすべて湯呑に移して頂戴しました。まさに仏さまが私に智慧を授けてくださり、禅定の境地へといざなってくださったものと感謝するばかりです。

故長沼基之・本会初代理事長は自身の著書を通じて、「信仰が無理なく生活習慣になっている。さりげなく実践できること」と、『生活即信仰』の大切さを教えてくださいました。そのことを忘れず、今月も日々実践させて頂きます。

祇園祭ボランティア～今年の担当が決まる～

６月１日、京都ＹＭＣＡにおいて「第３回祇園祭曳き手ボランティア委員会」が開催され、本会青年部も参加しました。また、６月 22 日に山鉾連合会事務局で「祇園祭山鉾巡行ボランティア鉾町合同打ち合わせ会」が開催されました。本会青年部員は今回担当する橋弁慶山の役員の方々から注意事項を教わりました。

６月 30 日のオリエンテーション、７月 17 日の巡行当日に向けて準備が進められます。

ユース２１京都総会　～定例活動を継続～

６月 14 日、京都普門館会議室において「ユース２１京都」の通常総会が開催されました。京都市内加盟 15 団体の代表者が出席し、年度事業計画を検討しました。

昨年度の『京都市成人の日記念式典』や『全国車いす駅伝競走大会』などの活動報告が行われ、今年度も同事業を実施する事業計画が決定されました。

「憲法改正」について　（平成 24 年 12 月１日発表の「憲法改正」に対する見解より）

現在、政界を中心に「憲法改正」の論議が高まりを見せています。論議の中には、これまでの平和主義を脅かす内容も見受けられます。（略）

第二次世界大戦の悲惨な経験を歴史的教訓とし、二度と同じ過ちを起こさないとの堅い決意により、「国民主権」「平和主義」「基本的人権の尊重」を基本原則とする日本国憲法が制定されました。

（中略）

世界から戦争をなくしていくには、自分の尊さを自覚して、すべてのいのちの尊さに思い至る「内なる平和」を一人ひとりの心の中に築いていかなければなりません。その意味で、本会では、平和主義の象徴である前文や第９条こそ「全人類の願いであり、日本の誇りである」と考えています。国や民族の違いを超えて互いに出会い、対話し、理解し合い、信頼を醸成しながら、知的及び精神的連帯を強める――こうした共に生きる世界を目指した国づくりを進めることは、人類の進むべき真の方向です。（以下略）

****

仏教では「殺生（せっしょう）」を最もしてはならないものと戒めています。自分のいのちも他の人のいのちも尊いものです。為政者の中には大義の前の小義と、人のいのちを軽んずる人もいます。

権力の座についても思い上ることがなく、憲法の基本原則を遵守してもらえるような人物にこそ、国の政治を託したいものです。

頑張る　おとうちゃん　～壮年部活動より～

若手壮年のリーダー研修（近畿支教区）

６月９日、大阪普門館において「近畿支教区若手壮年リーダー練成会」が開催され、京都教会から１０名の若手壮年メンバーが参加しました。

野田頭教会長（舞鶴）は「仏法は経典の中にあるのではなく人に親切にしようとする行いの中にある」と菩薩行の大切さを説きました。また、園西日本教区長から『朝夜の切り換え時間の有効的な活用で楽しく生きること』を学びました。参加者は今後１年間の具体的な実践目標を立てて、来年の再会を誓い合いました。

政治経済の現状を知ろう「政治経済学習会」

壮年部では、激変する社会情勢を正しく理解し、日頃の生活や仕事に役立てようと、広く会員に呼びかけて「政治経済学習会」を継続的に開催することにした。

第１回目は５月 29 日に行われ、国防問題や経済問題を学習しました。第２回目は６月２３日に実施され、憲法問題を中心に学びました。

庭野日敬の著書に学ぶ　「見えないまつげ」より

トゲのないバラはない

バラの花が美しいのも、バラの枝にトゲがあるのも、どちらも客観的な事実です。ある人は「美しいけれど、トゲがある」と欠点に重点を置いて考え、ある人は、トゲのあることは承知のうえで「バラは美しい」と長所を素直にたたえます。人間の器とか、幅というものも、そういう受け取り方の違いで大きな差がついてしまうのです。

****

本書ではこのあとに続いて、南禅寺門前の「泣きばあさん」の話が出てきます。雨の日も晴の日も泣いているおばあさんに、南禅寺のご住職がどうしてかと尋ねると「二人の息子がいて、一人は傘屋、一人は草履屋をしていて、雨が降れば草履が売れず、天気がよければ、傘が売れなくなり、息子がかわいそうで泣かずにおられない」と答えました。ご住職が「逆に考えて見れば」と言われ、おばあさんは心がパッと開け、毎日ニコニコして暮らしたそうです。

何につけてもマイナス面を気にする人は、明るく生きていく力を自分から捨てているようなものです。こうした見方をしていないか、振り返ることも大切です。

****

誰もが自分のまつげは見ることができないように自分の姿はわからないものです。心の持ち方ひとつで幸せにも不幸にもなります。本書は幸せになるものの見方、心の持ち方を数々のエピソードで紹介しています。（佼成出版社　¥1,200）

庭野開祖の宗教観・平和観　「一乗の道」

《善き友とともに》

一切法の実相は空と見るのが正しいとか、仮と見るのが正しいといったことでなく、空・仮・中の三つがとけあって一つになっている境地に至ることこそ、天台大師智顗の教えの中心といっていいでしょう。人間の生き方として心得ておきたいことだと思します。

また、仏教には八万四千の法門があるといわれるが、これを要約すれば、仏教の教義は三法印に尽き、信仰は帰依三宝(仏・法・僧)に尽きるといえよう。仏も法も、仏教徒にとって不可欠であることはあらためていうまでもありませんが、ここでは、とくに僧についてふれておきたいと思います。

釈尊は弟子たちに、こう語られています。「朝、陽が昇る時には、まず東の空が明るくなってくる。すると、やがて光がさっと輝きわたり、陽が昇る。東の空が明るくなるのは、陽が昇る前兆である。それと同じように、みなも八正道を歩もうと思うならば、その前に兆しがなければならない。その兆しとは善き友(サンガ)を持つことである」と。

ここには八正道とありますが、広く仏道と考えた方が理解しやすいでしょう。その仏道を歩もうとするときには、前提条件として共に支え合い、励まし合う善き友の存在が何よりも大切であるというのです。

退心ある者に不退の心を持たせ、欲望の海に溺れかけている者に救いの手を差し伸べ、くじけかける者の支えとなるものこそ、サンガにほかならないのです。じつにサンガなくして聖なる道の実践は成し得ない、と釈尊は教えられるのです。最初は庭野開祖を含めてわずか 30 人足らずで歩き始めた細い道が、いま形をなして、この道を歩めば誰もが幸せになれる、と認めてもらえるようになったのです。

だから皆さんにも、私たちが歩んできたこの道を歩いてほしいのです。そして、さらに前進し続けてもらいたいのです。その大道は、皆さんから遠く離れた所にありません。皆さんのその足下がそのまま大道になるということを、忘れないでいただきたいのです。

寂室元光(鎌倉後期・南北朝時代の臨済宗の高僧)は「日暮れて行人路岐に迷う」と言っています。すっかり日が暮れてしまっているというのに、人生の旅人は岐れ道に立って「はて、どちらへ行けばいいのか」と迷っている、しかも地図もない。信仰の杖もないということであってはならぬ、という戒めの言葉と解すればいいでしょう。

平成 10 年３月５日、立正佼成会は創立 60 周年を迎えました。思えば明治、大正、昭和、平成にわたる長い年月、庭野開祖が人としての務めを果たしてくることができたのも、すべては釈尊の教え、久遠本仏の甚大なご守護の賜物というほかありません。そして、60 年にわたる会員の皆さまのご精進のお陰さまで立正佼成会の今日があるのです。感謝の念とともに、あれを思いこれを思うほどに釈尊が最期にお弟子たちに残されたお言葉が、庭野開祖の胸によみがえるのです。「では修行者たちよ、すべてのものは移ろいゆく。怠ることなく、つとめるがよい」　（完）

「こころ　ひとつに　フェスティバル」収益金を奨学金に　～京都新聞社会福祉事業団に寄贈～

６月３日、京都新聞社を訪れた佐藤教会長から公益財団法人京都新聞社会福祉事業団・常務理事の高山良雄氏に、先月 19 日に開催された「こころ　ひとつに　フェスティバル」の収益金が寄贈されました。この寄付金は同事業団が実施する奨学金に充てられます。

東日本大地震以降、奨学金の寄付が減っていることと、景気が回復してきたと言われていますが、まだまだ経済的に苦しい家庭が多く、同事業団に 300 件（同日現在）を超える奨学金の申込みが来ているという話を伺い、今回の寄付することになりました。

渉外部からのお知らせ

●７～８月の主要行事予定

７月 １日	朔日参り・布薩の日	9：00～
4 日	開祖さまご命日	9：00～
10 日	脇祖さまご命日	9：00～
15 日	盂蘭盆会	9：00～
８月 １日	朔日参り・布薩の日	9：00～
4 日	開祖さまご命日	9：00～
10 日	脇祖さまご命日	9：00～
15 日	戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願の日	9：00～

●メッセージ

先日、庭野開祖とＷＣＲＰの歩みについてのＤＶＤ放映があり、その中で、バチカン公会議に開祖が招待され、ローマ法王のお言葉を受けて、宗教協力を決意されたことが紹介されました。その後ジャパニーズトラスティーズの活動報告がありました。

法座席にはＷＣＲＰ第１回大会と第８回大会のボランティアに参加した会員さんもおられ、会場が盛り上がりました。庭野開祖の弟子であることを誇りに思いながら、布教伝道に歩みたいと思います。